

| 科目名 | 開講時期 | 必修・選択 | 科目区分 | 単位（時間） | 科目責任者 |
|---|---|-------|------|-----------|----------------------|
| 生理機能検査学実習Ⅱ | 2年次 | 必修 | 実習 | 1単位（45時間） | 笹岡 悠一 ※ |
| 授 業 概 要 | | | | | |
| 政令で定める生体機能検査を円滑に実施するための技術を修得する。生体機能情報を収集するための理論と実際、そして結果の解析と評価をできるようにする。この実習を通して臨床実習に繋げられる力を身に付ける。 | | | | | |
| 到 達 目 標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 呼吸機能検査、平衡機能検査、聴覚検査に必要な知識を理解する。 測定法の原理を理解し、機器の操作ができる。 測定におけるアーティファクトを理解し、迅速に精密に正確に結果を出すことができる。 正常所見、異常所見を理解し、結果判読ができる。 | | | | | |
| 回 | 学 習 内 容 | | | | 担当教員 |
| 1-8 | 呼吸機能検査 ・スパイロメータによる検査と検査結果の評価 ・フローボリューム曲線の評価 ・ピークフローメータ | | | | 大西 秀典 ※ 竹内 法子 |
| 9-15 | 平衡機能検査 ・静的体平衡検査：両脚直立検査、マン検査、単脚直立検査、シェロングテスト、重心動揺計による検査と検査結果の評価 ・動的体平衡検査：指示検査、書字検査、足踏検査、歩行検査 | | | | 五十嵐康之 ※ |
| 16-23 | 聴覚検査 ・オーディオメータによる純音聴力検査（気導聴力・骨導聴力）と検査結果の評価 ・語音聴力検査 味覚検査 ・電気味覚検査 | | | | 笹岡 悠一 ※ |
| ※機器等の都合により実習内容を変更することがある。 | | | | | |
| 学 習 方 法 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 本実習は学生同士が被検者と検者役になって測定を行い、操作方法と結果判読法を習得する。 授業開始前に教科書及び講義ノートを読んで実習内容の検査について予習をし、講義後は復習をする。 実習中の待ち時間を利用してレポート作成が可能のため、レポート用紙、参考書、教科書を持参すること。 実習を欠席する場合は事前に科目担当者に了承を得ること。無断で欠席した場合は以降の出席を認めないことがある。やむを得ず実習を欠席した場合は、補習実習を行うので申し出ること。 | | | | | |
| 評 価 方 法 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 実習修了試験40%、レポート30%及び平常点（学習意欲・態度）を評価の30%とし、総合的に評価する。欠席は減点とする。 レポートはレポート評価基準（ガイドライン）に基づき評価する。これに満たない場合は評価しない。 再試験は筆記試験で評価する。 | | | | | |
| 先 修 科 目 | | | | | |
| 生理機能検査学Ⅱ、生理機能検査学Ⅲ | | | | | |
| 教科書、参考書 | | | | | |
| 〔教科書〕 臨床検査講座 生理機能検査学 大久保善朗 他 医歯薬出版 | | | | | |
| 〔参考書〕 標準臨床検査学 生理検査学・画像検査学 谷口信行 医学書院 臨床検査学実習書シリーズ 生理機能検査学実習書 今井 正 医歯薬出版株式会社 人体の構造と機能 第4版 内田さえ、佐伯由香、原田玲子 医歯薬出版株式会社 ぜんぶわかる人体解剖図 坂井建雄、橋本尚詞 成美堂出版 配付資料 | | | | | |